

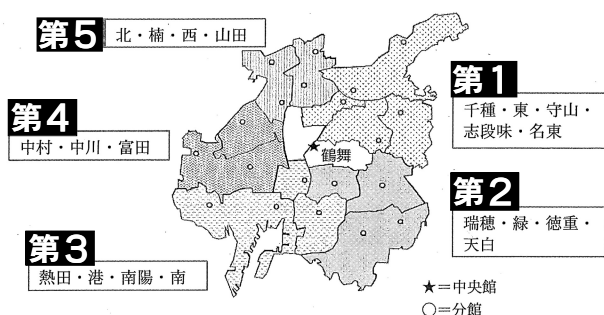
6月28日 教育子ども委員会（青木ともこ委員・さいとう愛子委員）

～ なごやアクティブ・ライブラリー構想（案）～

図書館 民営化の大幅拡大計画が急浮上

6月28日の教育子ども委員会で、市立図書館（1中央館、20分館）のあり方を激変させる「なごやアクティブ・ライブラリー構想（案）」の説明があり、青木ともこ、さいとう愛子両委員が質疑を行いました。

財政難理由に5ブロックに再編

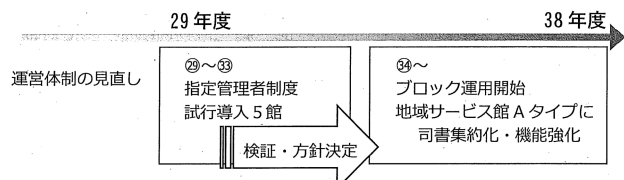


「構想（案）」は「厳しい財政状況のもとでのサービスの集中と選択、アセットマネジメントといった行政課題への対応」としてつくられたもの。「30年先を見据えた本市図書館のめざす姿」を明らかにした上で、今後10年の取り組みを示すとうたっています。

計画では、中央館（鶴舞）のほかに市域を5つのブロックに分け（上図）、各ブロック内の図書館（分館）をそれぞれ、専門的サービスも担う「Aタイプ」、基礎的サービスを担う「Bタイプ」及び「Cタイプ」の3区分に再編（下表）。今後10年で「直営と民間活力を組み合わせて効率化を図りながら順次ブロックの運用を開始」するとしています（右上図）。

区 分	運営形態	蔵書（冊）	基礎的サービス		専門的サービス		新たなサービス	
			貸出・返却	おはなし会等の行事	専門資料の収集	市民や行政の課題解決支援	自動貸出返却	ゆとりの空間
中央館	直営	130万	○	○	○	○	○	○
地域サービス館	Aタイプ	15万	○	○	○	○	○	○
	Bタイプ	5～7万	○	○	—	△	○	○
	Cタイプ	1万	○	—	—	—	○	△
貸出返却ポイント	民間活力の活用を検討	—	○	—	—	—	—	—
協働運営ポイント		—	○	△	—	—	—	—
自動車図書館		—	○	△	—	—	—	—

（注）○は実施を、△は一部実施を示す。



蔵書数が減る恐れ

市は老朽施設が多い「第一ブロック」から着手。耐震性を満たしていない千種図書館を「Aタイプ」として星ヶ丘駅周辺等に移築、東・守山・志段味・名東各館を「B」ないし「C」にする計画です。

同ブロック内の図書館は現在、合計47万余冊を所蔵していますが、タイプ構成によっては大幅に削減される恐れがあります。実際、教育委員会は質疑で「ゆとりの空間」を確保するうえで、冊数が減ることも考えられる」と答弁しています。

青木議員は質疑で「蔵書数の大幅削減に（各図書館は）どうやって対応するのか」と追及。当局は「一部の本は市のネットワークを通じて取り寄せることになるかも。10年、5年以上経つものや、辞典・全集など貸出回数が少ない本を精査し、地域にあわせて蔵書構成を考える」と答えました。

青木議員は「名古屋の文化と教養にかかわる大問題だ」と述べ、回答者千人規模の「市民ニーズ調査」（昨年8月実施）では個人貸出登録者数47万人の思いは汲みつくせないと批判しました。当局は「これからパブコメを行うのでそれを踏まえない」と述べました。

司書がいなくなる可能性も

さいとう議員は、運営形態を「民間活力の活用を検討」するとしている「B・Cタイプ」について、「公務員の司書はいないということか」と質問。当局は「民間活力の活用の仕方にもよるが、その可能性はある」と述べました。

さいとう議員は「（指定管理者制度施行導入の）検証をしっかりと行い、利用している人のニーズをきちんと調査すべきだ」と求めました。

今後のスケジュール

今年7～8月 パブリックコメントの実施
同 10月 構想策定